

ニュースレター



長野県立こども病院だより第37号 発行日:2015年7月15日 発行者:原田 順和
〒399-8288 長野県安曇野市豊科3100 TEL0263-73-6700 FAX0263-73-5432
<http://nagano-child.jp/> kodomo@pref-nagano-hosp.jp

 Contents

- 患者支援・地域連携室紹介 …… 1
- PICU増床の進捗状況 …… 4
- 臨床検査科紹介 …… 4
- 防犯対策員紹介 …… 5
- 栄養科通信 …… 5
- 寄附のお願い …… 5
- 東南アジアに行く …… 6
- 院内研修会予定 …… 7
- 編集後記 …… 7



撮影:大畑 淳

長野県立こども病院理念

わたし達は、未来を担う子ども達のために、
質が高く、安全な医療を行います。

患者支援・地域連携室を紹介します

こども病院の正面玄関から入って中庭を見渡せる1階にカエルのマークの「患者支援・地域連携室」があります。カエルには『地域にカエル』『家にカエル』『我にカエル』といった意味があります。医療保健福祉相談、在宅医療相談、紹介状の受付等・様々なご相談や受付を14名のス

タッフと3名のボランティアコーディネーターで運営しています。「どんなことしているの?」と分かりづらい患者支援・地域連携室、今回はそんな患者支援・地域連携室をご紹介しますと思います。



患者支援・地域連携室

室長 樋口 司

昨年から患者支援・地域連携室の室長を務めます樋口です。

平成24年に厚生労働省の在宅医療連携拠点事業を受託し、平成25、26年は同じく厚生労働省の小児等在宅医療連携拠点事業を県から委託されて遂行してきました。小児在宅の実情調査、地域資源の確認、小児在宅を担う人材の発掘と研修、患者家族を含めた関係者間の情報共有システムの開発などを行ってきました。この事業は今年度も当院として継続していきます。長野県全体の小児の在宅医療をより良くしていくために、当院として活動するその中心を本室は担っていきます。また、病院の中の一組織として以下の3使命をかげ、当院の患者さんとそのご家族のためにスタッフと共に頑張っていきますので、ご指導ご協力をよろしくお願いします。

- 患者、家族が安心して高度医療を受けられるよう支援する
- 1人でも多くのこどもが家族とともに過ごせるよう支援する
- 地域の医療機関や福祉施設とのよりスムーズな連携を目指す



保健師

山越直美 山下彩子

患者支援・地域連携室の一員として、保健師2名が配属されています。

外来患者さん、入院中の患者さんとそのご家族とお話をさせていただきながら、お家や地域で安心して暮らしていけるようお手伝いさせていただいています。特に入院されているお子さんご家族は退院後の生活がとても不安に思われます。地域で生活するという事は、病院という限られた環境の中とは違い多くの機関や人との関係が出てき

ます。その不安がひとつでもなくなるよう、特に市町村保健師と連携させていただきます。

予防接種センターも保健師業務の大きな役割のひとつです。ここ数年で予防接種法による定期的予防接種の種類も増えています。治療の内容によっては予防接種ができない期間もあります。予防接種スケジュール等の相談、予防接種外来の予約業務、接種後の保健指導を行っています。

看護師

牧内明子 三間真理子

患者支援・地域連携室には2名の看護師が配属されています。私たち看護師は、お子様やご家族が安心して安全に心豊かに暮らしていけるよう、様々な在宅医療の相談や調整、支援を行っております。在宅酸素療法や経管栄養など、ご自宅で医療を必要とするお子様やご家族の相談を行い、在宅医療機器の紹介や訪問看護ステーションやリハビリテーションの紹介や手続きを行っております。また、地域関係機関との情報共有を行い、常に顔の見える関係づくりに力を注いで連携しております。情報共有を行う情報ツールとして、“小児在宅療育電子連絡帳ネットワーク「長野しろくまネットワーク」”や“インターネットオンライン会議”など、ICTを利用することで遠くにおいても繋がれる新たな方法にも取り組んでおります。また、マニュアルの作成や研修会の企画に参加し、小児在宅医療の推進にも取り組んでいます。マニュアルや研修会の資料、長野しろくまネットワークの詳細の情報は、小児等在宅医療連携拠点事業ホームページ (<http://www.nagano-shounizaitaku.com/>) を参照下さい。



認定遺伝カウンセラー

荒川経子

認定遺伝カウンセラー（CGC…Certified Genetic Counselor）の荒川経子です。

CGCとは、「質の高い臨床遺伝医療を提供するために臨床遺伝専門医と連携し、遺伝に関する問題に悩むクライアントを支援するとともに、その権利を守る専門家」です。当院では2012年から、患者支援・地域連携室に在籍して認定遺伝カウンセラーとして、臨床遺伝専門医とともに遺伝医療に関わっています。

当院は、小児専門医療施設ということもあり業務の内容

としては、遺伝学的検査を受けることになった、あるいはその結果の告知時に患者さんやご両親に対しての心理社会的支援を行ったり、生まれつきの体質を有するお子さんを育てて行くことになった時の支援、次のお子さんや次世代へのつながりの心配がある時、また自分自身のこととして考えて行く必要のある思春期のこども達に対しても、そのタイミングをご両親と相談しながらチャンスを見極めていきます。

医療ソーシャルワーカー

丸山昌子 小牧千織

患者支援・地域連携室には医療ソーシャルワーカーが2名配置されています。医療費や福祉制度に関する相談に応じている他、退院支援や家族支援、養育支援、虐待への対応など患者さんご家族がより安心した生活ができるように相談支援を行っています。

医療ソーシャルワーカーが行う相談支援は院内の多職種と連携を図ることはもちろんですが、社会資源といわれる制度を活用し、地域関係機関と連携を図りながら、患者さ

んがよりよい医療を受け、地域で生活していけるように支援していくことを考えています。

制度をよく知り関係機関と良好な関係を築くこと、相談にあたっては視野を広く持ち、どのようなことにも耳を傾け一緒に考え、自己決定を支えられる医療ソーシャルワーカーでありたいと思っています。

日々の相談支援を通じ、学びながら自己研鑽していきたいと思っておりますので、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト

塩崎暁子

認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト（Certified Child Life Specialist：以下CLS）は、医療環境にあるこどもやその家族を心理社会的側面から支援する医療専門職です。当院では米国Child Life Councilで認定されたCLSが2012年に導入されました。こどもが受け身になりがちな医療の中で「その子らしく」医療体験を乗り越えられるよう支援することを目的に、多職種と連携・協働し組織横断的に活動しています。こどもの年齢や発達に適した方法

や教材を用いた治療や検査の説明、その内容理解や受容の過程を支えるための心の準備支援（プレパレーション）、ニーズに合わせ感情表出や発達を促す遊びの提供、心理的苦痛に対するケアなどに携わっています。病院で出会った患者さんの姿を一点で見つめるのではなく点と点を結ぶように成長を捉える視点と、かけがえのないひとりとしてその子に寄り添うことを大切にしていきたいと思っております。

事務職員

連携事務 川原和美

小児等在宅医療連携拠点事業を担当しています。

本事業は、在宅療養を必要とするこども達とその家族が幸せに暮らせる社会環境を目指し、取り組みが行われています。

当院では「こども病院が地域へ」をテーマに地域へ出向く活動も行っており、多職種・多機関との繋がりの輪も広がってきています。

こども病院から地域へ戻ったこども達が安心して療養生活を送れるよう、県全体で小児在宅医療を推進していくことが大切と考えます。そのために不可欠な医療・福祉・教育等の支援が円滑に提供されるよう、関係機関と連携を図り地域で在宅療養を包括的に支援する体制を構築していきたいと思っております。

4月から新しく患者支援・地域連携室に入りました。セカンドオピニオン外来の受付、診療情報提供書・返書の管理受付、信州メディカルネットによるカルテ公開の受付業務、ファミリーハウス受付などを担当しています。まだまだ業務を覚えるのに必死でいたならないことばかりですが、丁寧な対応を心掛け、スムーズにご案内できるようにすることが目標です。

患者支援・地域連携室4年目になります。事務補助として連携室の方のお手伝いをさせていただいています。患者さん・ご家族と接する機会が多いので、書類等の手続きなどできるだけ家族の方の負担にならないよう心がけながらこれからもお手伝いができたらと思います。

医事係 —こんな仕事をしています—

代表 満川 三澤 小林

来室された患者さま対応から新患者さまの問診票入力、退院後の初外来予約、育成医療高額医療のご案内、また保険会社や学校関係の書類の受付や情報提供書の郵送等幅広いお仕事をさせて頂いています。

患者支援・地域連携室の職員の方々と連携を取りながら、患者さまに寄り添った暖かい対応を心掛けています。何でもお気軽にお声掛けください。



PICU増床の進捗状況

小児集中治療科部長 松井彦郎

小児集中治療病床(PICU)の増床計画に関するお知らせです。現在、できるだけ早く計画を進めるために、急ピッチで図面や病棟の物品などを整備しています。今年の8月には大体の設計を終え、様々なステップを経て来年春には着工できればと考えています。PICUのスタッフだけでなく、PICUを利用する診療科や医療技術部と協力してよいものを作っていきたいと考えています。工期など詳細が決

まりましたら、逐次お知らせいたします。院内・院外のすべての皆様の御支援宜しくお祈いします。



臨床検査科紹介



血液を分析しています

こども病院の臨床検査科では20名の臨床検査技師(女性18名、男性2名)が、臨床検査医・病理医、診療部の医師、看護師等と緊密に連携して業務を行っています。各スタッフはこども病院の高度医療に必要な質の高い検査情報を提供するため、臨床検査技師の国家資格に加えて認定細菌検査技師、超音波検査士など専門性の高い認定資格を取得、あるいは取得を目指してレベルの向上に努めています。

臨床検査科では診療に直接関わる検査だけでなく、長野

県からの受託事業「新生児マス・スクリーニング検査」や臨床研究に関連した業務を実施しています。診療に利用される臨床検査としては、健診などでおなじみのコレステロール、血糖、白血球数、尿タンパク等を測定する検体検査、呼吸機能、心電図、脳波、超音波(エコー)等を含めた生理機能検査、感染症の原因菌を調べて効果のある抗菌薬の情報などを提供する細菌検査、手術等で採られた組織や細胞を顕微鏡で観察して診断する病理検査などがあります。このように臨床検査科の業務は幅広い専門領域に分か



顕微鏡を使った検査

れており、それぞれの担当者が報告した検査データをもとにチーム医療に参画しています。新生児マス・スクリーニング検査は濾紙にしみ込ませた赤ちゃんの血液を使い、長野県内で生まれたほぼ全ての新生児について先天性代謝異常症等の検査を行っています。平成26年度は里帰り出産を含めて約17,400人の新生児の検査が実施されました。こども病院を中核医療機関に位置づけて長野県と共同で

行う新生児マス・スクリーニング事業は、長野モデルとして全国から注目されています。また、臨床検査科の検査技術や機器を活用した臨床研究で得られた貴重な情報は内外に向けて発信されています。



新生児マススクリーニング

防犯対策員の松下和之です



今年の5月より、こども病院に防犯対策員として勤務しています。

ここでは皆さんが自然に挨拶を交わされるのが印象的で、それをすごく気持ち良く感じながら仕事をしています。

私は普段、院内を巡回していますが、以前の職場に比べここでは子供さんと接する機会が増えました。エントランスにいますと大勢の患者さん達と接することができ、そこでコミュニケー

ションがとれることが非常に楽しみでもあります。毎日エントランスに立ち、皆さんと気軽に挨拶をし、顔見知りとなって、まずは自分に馴染んでもらいたいです。

私の仕事は医療を提供する側を守ることと同時に医療を受ける側の安全を守ることです。皆さんとコミュニケーションをとりながら、一緒に問題を解決していきたいと思っておりますので、何かお困りのことがあれば、気軽に声をかけて頂ければと思います。よろしくお願ひします。

栄養科通信 第2回 フルーツバイキング

栄養科では毎月バイキングを行っています。内容は月ごと違っており、フルーツ、パン、クレープ、お菓子、イチゴなど趣向を凝らして、患者さん、ご家族の皆さんと一緒に楽しめるメニューを考えています。

6月のバイキングはフルーツ。スイカ、メロン、ライチ、サクランボ、マンゴー…。色とりどりのフルーツを取り入れ、普段給食に提供していないフルーツも加えました。

多くの患者さんがバイキングを楽しみにしてくれており、バイキングが始まる前から食堂に集まり行列ができて

いる時もあります。バイキングに参加している時の患者さんの表情はとて笑顔でキラキラしています。栄養科一同、これからも楽しくバイキングに参加していただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。



こども病院への寄附のお願いについて

長野県立こども病院は、県内唯一の小児専門病院として、周産期及び小児高度専門医療を提供する病院として設置され、県全体の小児医療水準の向上にも寄与しています。

平成5年の開院以来、質が高く、安全な医療の提供を目指して取り組んでおり、その運営にあたっては、皆様の温かなご支援に支えられてまいりました。

皆様からの善意の寄附は、子どもが読む図書や玩具等の購入やプレイルームの充実など、こども病院の運営に有効に活用させていただいております。

引き続き、こども病院の運営と患者の療養環境の整備のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

※長野県立こども病院への本寄附金は、税制の優遇措置の対象となっております。

……本寄附金に関するお問合せ先……

長野県立こども病院事務部 三枝、臼井
TEL 0263-73-6700 FAX 0263-73-5432

「ご寄附ありがとうございました」

今年度も皆様の温かいお心により、たくさんのご寄附をいただきました。深く感謝申し上げます、ここにご紹介させていただきます。

寄附日	寄附者名	寄附日	寄附者名
平成26年9月	布山様	平成27年2月	JX日鉱日石ビジネスサービス株式会社様
	アポットジャパン株式会社様		新本庁舎へ「福儀」の設置を進める会様
平成26年10月	長野県助産師会様	平成27年3月	国際ゾンタ松本ゾンタクラブ様
	特定非営利活動法人あづみのファミリーハウス様		愛つむぎの会～ハートブーク様
	布山様	村山様	
平成26年11月	高山様	平成27年4月	GAC株式会社様
	サンタ・プロジェクト・まつもと様	窪田様	
平成26年12月	布山様	平成27年5月	タリーズコーヒージャパン(株)様
	中村様		市川様
	JAあづみ豊科支所様	信州フアンドレイジングチーム様	
	布山様	松本大学地域づくりの考房「ゆめ」プロポプロジェクト様	
	坂本様	さいとう様	
	海沼様	坂本様	
Azumino 光のページェント実行委員会様	平成27年6月	岡本様	
細田農園様			

連載
第2回

「大きいことはいいことだ?！」

こんにちは。今回はベトナム人患者さんを診察していて印象的だったことをご紹介します。

私が勤務していたのはイスラエル人院長が開いた外資系クリニックでしたので、患者さんは色々な国の方がいました。ベトナムの方もかなり来てくれていましたが、うちを受診するのはある程度裕福な患者さん達です。あと孤児院にいて里子になることが決まった子供達の健康診断も行っていました。

私が日本人だと知るとまず多かった質問は「なんでベトナムに来たの?」でした。彼らからすると日本はお金持ちで清潔で先進国であり、そんな素晴らしい日本を出てわざわざベトナムで働こうという行為を不思議に感じるようでした。または「もしかして日本で何かして働けなくなったからベトナムに来たのでは?！」と思うのかもしれませんが。そこで「日本はいい場所だけど、環境も医療も違う東南アジアで働く経験をしたかった」と言うのとたいい「そうなんだ」と納得してくれました。そして多くの方が「ベトナムはどう?気に入った?」と聞いてきて色々教えてくれたりしました。

普段の診察でベトナムの人から最も多かった訴えは「この子の体重は大丈夫か」ということでした。現地ではまだ『子供が太っている＝裕福・いいことである』という認識が強いので、赤ちゃんの時から子供が欲しがる以上にミルクを飲ませる傾向が強いです（そして当然「よく吐く」という訴えも多いです）。その結果1歳半の時点で15kg、2歳で20kg、5歳で30kg以上(!)という子もよくお目にかかりました。また国は母乳を薦めていますが一般的には粉ミルク信仰が強いため、4、5歳になっても多くの家庭が粉ミルクを飲ませています（その年齢用の粉ミルクも



見えづらいですが、街中では自転車の前に座席のついたシクロをよく見かけます。今は主に観光客用です。

市販されています)。さすがに最近では減っていますが、以前は動物園などで3歳くらいの巨体の子がのしのしと歩きながら哺乳瓶でミルクをラップ飲みをしている姿をよく見かけたものです。また子供の食事は就学前まではスープにご飯を入れたような柔らかい物が多いため、ベトナム人お母さんで日系の幼稚園に入ったお子さんは園のご飯が噛めなくて食べられない、という問題がよく起こっていました。

子供を太らせたい思いは親世代よりも、ベトナム戦争後の食べ物がなかった時代に苦労した祖父母の世代に強いように感じます。その思いを汲みつつ、太っている＝健康ではないこと、今のままでは将来生活習慣病にかかる可能性があることを説明していましたが、多くの方はあまり納得していなかったように思います。

情報が進みベトナムの子供達が健康的に大きくなるといいな!と願ってやみません。



ローカルの遊園地でお昼同じテーブルになったベトナム人のおばさんとお孫さん。ここでの食事の後私はお腹を壊しました。



子供が大好き、アイスクリームスタンド。ひとつ約20円です。

今年の病院祭は体育の日(10月12日)です!!

10月12日(月)体育の日の病院祭では、色々なアトラクションだけでなく東京医科大学精神科の井上猛教授をお招きして講演会を開催します。本講演会では幼少期の体験が成人後の気質に与える影響についてお話をさせていただく予定です。多くの方のご来訪をお待ちしております。

—広告募集—

病院祭実行委員会では、病院祭のパンフレットに掲載する広告を募集します。広告掲載をご希望の方は長野県立こども病院事務部 (tel:0263-73-6700 担当 三枝、臼井) までご連絡ください。詳細は病院ホームページ (<http://nagano-child.jp/>) でご覧になれます。

長野県立こども病院 院内研修会予定



「論文の読み方・書き方」

講師：東京都立小児総合医療センター感染症科 伊藤健太先生

日時：平成27年7月24日(金) 18時30分～19時30分

場所：南大会議室

内容：職種を問わず医療に関わるスタッフは論文から最新の情報を得ておく必要があります。論文の選び方、批判的吟味から始まり、最終的には論文を自分で構成するところまで、これからの医療人にとって必須スキル、論文の読み方・書き方についてお話しいたします。

*後期研修医対象ですが、院内外の医療関係者の参加も歓迎します。

「レジデントでもできる臨床研究」

講師：東京都立小児総合医療センター臨床研究支援センター 森川和彦先生

日時：平成27年8月14日(金) 18時00分～19時30分

場所：南大会議室

内容：医師の役割には日常診療を行う以外にも、臨床で得た新たな知見を報告し、医学の発展に寄与することも含まれます。今後小児科専門医試験受験に論文発表も必須となる流れもあり、レジデントが行える臨床研究、報告について、実際に指導を行っている講師よりご講演いただきます。

*後期研修医対象ですが、院内外の医療関係者の参加も歓迎します。

「ワクチン UpToDate」

講師：国立感染症研究所感染症疫学センター 森野紗衣子先生

日時：平成27年8月28日(金) 18時00分～19時30分

場所：南大会議室

内容：水痘、B型肝炎の予防接種の定期化が行われるなど、国内のワクチンの情報も頻繁に変わっており、常に最新の情報に目を向ける必要があります。国立感染症研究所の専門家をお招きして最新の情報、根拠、効果についてお話しいたします。

*後期研修医対象ですが、院内外の医療関係者の参加も歓迎します。

「小児の抗菌薬使用の原則」

講師：静岡県立こども病院救急総合診療科 荘司貴代先生

日時：平成27年9月18日(金) 18時00分～19時30分

場所：南大会議室

内容：抗菌薬の適正使用は世界的に重要な問題となっています。小児専門病院でICDをしている講師よりどのような点に注意して使っていくべきかご講演いただきます。

*後期研修医対象ですが、院内外の医療関係者の参加も歓迎します。

「軟部組織・骨関節感染症」

講師：名古屋大学医学部附属病院中央感染制御部 手塚直行先生

日時：平成27年9月25日(金) 18時00分～19時30分

場所：南大会議室

内容：小児では誘因なく突然の骨髄炎や関節炎を起こすことがあり、また、Rushな経過をたどる皮膚軟部組織感染症もあります。これらの診療のポイントについて感染症専門家の立場からご講演いただきます。

*後期研修医対象ですが、院内外の医療関係者の参加も歓迎します。

編集後記

前号から総合小児科寺川医師による「東南アジアに行く」の連載が始まりました。旅行してただ眺めるのとは違う、その地で生活した人だからこそ書ける異文化体験談です。今後の展開が大いに楽しみです。異文化といえば、かの米国ではスーパーなどのレジで精算する際に「ハーイ」と軽く挨拶します。人間関係をなめらかにするいい習慣ですね。最初は気後れしてもすぐに慣れて普通の行動になります。そんなわけで不肖私、日本に戻って近所のスーパーに行ったとき、レジのオバ、いえ、おねえさんに「ハーイ!!」・・・やっしまいましたね。しばらくの間そのスーパーには恥ずかしくて行けませんでした。いい習慣ではあっても文化が違うと怪しげな行動になることがあるわけです。異文化交流で世界を知り我が身を振り返る、人生が豊かになると思いますよ。 小木曾

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成27年7月1日現在

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	渡邊 佳洋 (AM)	高橋 淳 (PM) (第2・第4)	松原 光宏 (AM) 藤岡 文夫 (AM) 加藤 博之 ^{※1}	松原 光宏 (AM)	松原 光宏
小児外科		畑田 智子 (AM) 好沢 克 (AM) 高見澤 滋 (PM)	高見澤 滋 (PM)	畑田 智子 (AM) 好沢 克 (PM)	岩出 珠幾 (AM)
眼科	北澤 憲孝 視能訓練	視能訓練	視能訓練	北澤 憲孝 視能訓練	北澤 憲孝 視能訓練 (AM)
総合小児科	南 希成 (AM) (PM4時~5時予防接種相談)	樋口 司	樋口 司 (PM) 南 希成 (PM) (ワクチン接種)	南 希成 (AM)	樋口 司 (AM)
総合小児科 アレルギー外来	小池 由美 (PM)		小池 由美 (AM)		
総合小児科 内分泌・代謝外来		竹内 浩一		竹内 浩一	竹内 浩一 (AM)
血液腫瘍科 免疫・アレルギー外来			小林 法元 (AM)		
血液腫瘍科 血液・腫瘍外来	坂下 一夫 柳沢 龍	坂下 一夫 (AM)	坂下 一夫	坂下 一夫	柳沢 龍
循環器科 (内科・外科)	岡村 達 (AM) 梅津健太郎 (AM) (外科)	安河内 聰 瀧間 浄宏 仁田 学 (PM) (内科)	原田 順和 (AM) 岡村 達 (AM) 梅津健太郎 (AM) (外科)	安河内 聰 田澤 星一 仁田 学 (内科)	瀧間 浄宏 田澤 星一 (内科)
循環器科 成人移行期外来		元木 博彦 (AM) (第2・第4)			
リハビリテーション科					笛木 昇 (AM)
精神科 こころの診療科					篠山 大明 ^{※2}
脳神経外科	重田 裕明 宮入 洋祐	重田 裕明 宮入 洋祐		重田 裕明 宮入 洋祐	
泌尿器科 皮膚・排泄ケア外来	市野みどり		市野みどり	市野みどり (AM)	
神経小児科	平林 伸一 (午前は発達障害専門外来) 福山 哲広	平林 伸一 (午前は発達障害専門外来) 福山 哲広 (PM) 中嶋 英子 (AM)	平林 伸一	中嶋 英子 (AM)	平林 伸一 福山 哲広
小児外科					高見澤 滋 (胃瘻・中心静脈栄養外来)
新生児科	小田新 (AM) (第1・3・5) 亀井良哉 (AM) (第2・4) 中村 友彦 (PM)	廣間 武彦	関 聡子	廣間 武彦	山口 由美
形成外科	野口 昌彦 藤田 研也 一之瀬優子 (AM)	安永 能周 (AM) (第4)	野口 昌彦 藤田 研也 一之瀬優子 (AM)	野口 昌彦 (PM)	野口 昌彦 (PM) 杠 俊介 (PM) 藤田 研也 (PM) 永井 史緒
総合小児科			笠井 正志 (PM) (PM4時~5時予防接種相談) 水城 弓絵 (AM) (第2) (内分泌系)		
麻酔科	大畑 淳 (AM)				大畑 淳 (AM)
皮膚科				芦田 敦子 (AM)	
遺伝科	古庄 知己 (AM11時~)	西 恵理子	西 恵理子	西 恵理子 (AM) 泉 幸佑 (PM) (第2・4) 高野 亨子 (PM) (第3)	西 恵理子 (AM) (PM2時~)
耳鼻咽喉科	佐藤梨里子	佐藤梨里子	佐藤梨里子	佐藤梨里子	森 健太郎 (AM) (第1・3) 塚田 景大 (AM) (第2・4・5)
循環器小児科 胎児心臓外来		田澤 星一	松井 彦郎	瀧間 浄宏	安河内 聰
産科	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 高木紀美代
リハビリテーション科	笛木 昇	関 千夏 (AM) 笛木 昇 (PM)	笛木 昇	原田由紀子 三澤 由佳 (AM)	笛木 昇 (PM)

※1 整形外科の加藤医師は3ヶ月に1回第3週のみ診察となります。

※2 精神科 (こころの診療科) 篠山医師は第1~4週の診察となります。
外来の初診は、受付しておりません。

★診察時間：午前9時~午後4時

★休日：土・日曜日、祝祭日、年末年始

★受診には、原則として予約が必要です。

予約専用電話

0263-73-5300